

広報

のあさひ

No.365

'87

4/15



新学期スタート！

新入生の雄喜くん(左)と2年生になった哲也くん
川村先生といっしょに「仲良くがんばるぞー」(川通分校)



昭和六十二年度の予算をはじめ、町政の新たな方針が、三月九日から開かれた町議会三月定例会で決まり、四月一日からいよいよスタートしました。

町政執行への新たな決意でのぞむ、小林町長の施政方針と合わせ、新年度の予算のあらましについてお知らせします。

●行政機能を最高度に発揮し

働く場の確保と拡大を

めざす

●朝日町長 小林 富蔵

昭和六十二年度の予算及び町政執行に当たって、基本的な施政の方針を申し上げます。

まず、現今における我が国の諸情勢についてであり、ますが、国際化社会の進展、高齢化社会の進行、高度技術社会、高度情報化社会の到来が、一層明確になっております。

また、国、地方を問わず、財政危機がいよいよ深刻化しており、税制改革問題で混乱を続ける国会の状況に見られるごとく、地方財政の行方も心配されるところであります。

さらに、円高不況、貿易摩擦の深刻化、農産物自由化への外圧、失業者の増大など、誠に容易ならざる状

況にあります。

こうした状況にあつて、私共はその対応を誤ることなく、冷静に動向を見極め、英知を結集して、町政執行に当たる所存であります。

ひるがえつて、本町における当面する課題を考えますと、これまで難問題が山積みしている状況であります。水田再編対策にどう取

り組み、安定した農業をどう確立するのか、高齢化社会にどう対応するのか、家族旅行村を成功させる政策の確立と働く場の拡大、老朽校舎の整備、道路網の整備、後継者対策、行政改革の推進等々、どれ一つを取り上げましても、容易ならざる問題ばかりであります。

これらに対処するためには、財政の有効な運用、職員の職能の向上等を図り、行政機能を最高度に発揮いたし、全力を傾注して対処して参る覚悟であります。そのためにも町民皆様の、尚一層の御理解と御協力をお願い申し上げる次第であります。

投資的事業計画

●道路整備事業	2億 161万円
●朝日山麓観光レクリエーション地区整備事業(家族旅行村)	1億 147万円
●農村総合整備モデル事業	9,281万円
●新農業構造改善事業	9,153万円
●西五百川小グラウンド造成事業	6,113万円
●農村基盤総合整備事業	5,283万円
●都市計画事業	3,934万円

●森林総合整備事業	3,085万円
●消防施設整備事業	2,082万円
●団体営農道整備事業	1,819万円
●土地改良総合整備事業	1,617万円
●大滝公民館新築事業	1,300万円
●その他の事業	8,654万円
■合計	8億2,629万円

●水田再編及び農業確立への対応●

水田再編、三期対策については、食糧制度堅持の立場からも、農協をはじめ関係機関、団体、力を合わせてその推進に当たりたいと考えてあります。

しかしながら、農産物の輸入拡大など、コメを取り

巻く情勢は大きく変化を見せようとしており、これらの動向を十分に踏まえながら、町の農業振興計画の見直しも含め、安定した農業確立の方策、新たな農業の方向を明確にして参りたいと考えてあります。

●高齢化社会への対応●

四月一日からホームヘルパーの人新を図りましたが、合わせて、高齢者人材銀行の創設、ボランティア活動の推進など、高齢者の生きがいづくりを進めるほか、百歳となったかたへの長寿

祝金支給制度を発足させます。

さらに、高齢化対策プロジェクト会議を設置し、今後における高齢化社会への対応策を確立して参りたいと考えてあります。

●働く場の拡大●

新たに企業の誘致を、と言う声もありますが、現状から見て極めて難しい状況にあり、道路網の整備による通勤圏の拡大に努めて参ります。

ただ、長年の課題でありますアサヒタイル跡地にアイジー工業の進出が決定し

たことは、何よりも大きな活力であろうと考えます。

また、家族旅行村の整備、丸正食品の進出などによる雇用の場の拡大が図られますし、既存企業の育成、農業振興等による働く場の拡大に努めて参りたいと考えてあります。

●老朽校舎の整備●

財政事情もあり、老朽校舎の整備計画も一部見直しが必要となっておりますが、新年度では三分校の教室の増築を行うほか、六十三年度に改築を予定しており

ます水本小学校の改築準備を進めます。

文教施設では、西五百川小学校のグラウンド整備が最大の事業であります。この完成を図ります。

●行政改革の推進●

行政改革実施計画書に基づき、コンピュータの充実などOA化を進めるほか、「行政改革推進審議会」の審議も経ながら、積極的に行政改革を推進して参ります。



高齢者の生きがいづくりも大きな課題



子どもたちの未来を確かなものに

●家族旅行村への対応策●

家族旅行村の整備については、過疎債の特枠の確保を図りながら、計画どおり実施して参ります。

管理、運営形態については、検討委員会の答申に基づき組織を構築する考えで

ありますが、それらの積極的な推進のため、四月一日から「家族旅行村対策室」を設置しました。今後運営組織の設立準備、開村に向けての体制づくりを進める考えであります。

●道路網の整備●

国道二八七号線、主要地方道山形・朝日線、県道長井・大江線等については、強力に陳情を行っており、その整備促進を図ります。

町道については、過疎計画等に基づいて、完全実施

を図ります。

また、都市街路前田沢・西町線については、移転先地のための住宅団地を、西部土地開発公社の事業として実施することになっており、その促進を図ります。

朝日町新年度予算のあらまし

2

歳入

地方交付税

15億4,000
(140,000)
49.2%

町税

4億
8,468
(44,062)
15.5%

県支金

3億
6,127
(32,842)
11.5%

町債

3億
2,440
(29,491)
10.4%

国庫支出金

1億1,283 (10,257) 3.6%

諸収入その他

3億
782
(27,984)
9.8%

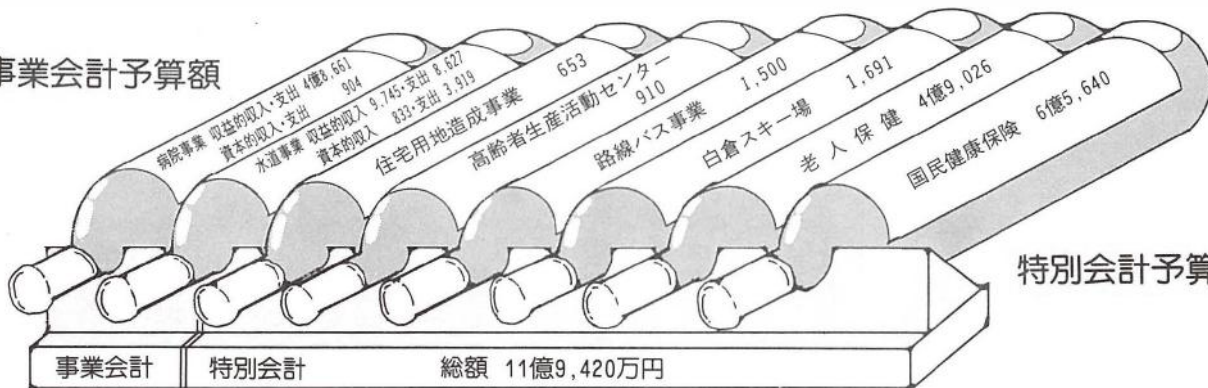
○単位：万円
○()内は、
町民一人当
たり：円

【一般会計当初予算の推移】

町税の内訳	固定資産税	2億4,558万円	50.7%
	町民税	1億7,064万円	35.2%
	たばこ消費税	3,850万円	7.9%
	その他	2,996万円	6.2%



事業会計予算額



特別会計予算額

一般会計予算の編成方針

昭和六十二年の予算編成につきましては、施政方針の中でも申し上げましたとおり、国の予算編成方針に準拠するとともに、経済の動向を充分に見極め、公共事業の積極的な受け入れをはじめ、継続事業の推進さらには単独事業を意欲的に計上し、町民各位の要望にこたえるべく、最大限の予算を編成いたしました。

しかしながら、財政事情は誠に厳しく、国の予算編成の内容を見ますと、一般会計規模は、六十一年度に比べ、〇・〇二%の増と、ほぼ伸び率ゼロに圧縮され、昭和三十年度以来、三十二年ぶりの超緊縮予算案となっております。

一方、地方財政については、六十二年の地方財源不足額は、二兆三千七百五十億円となる予定であり、国庫補助率の削減や税収の落ち込みなどが、その主な原因となっております。これらの財源不足額の補てん策として、建設地方債の増

発、地方交付税の特例増額などにより、完全補てん措置を基本とした、地方財政計画を自治省は明らかにしております。

以上のような状況の中で朝日町の財政状況は、町税や地方交付税等の一般財源の伸びが期待できず、人件費など義務的経費の増高により、町財政の硬直化が一段と進み、厳しい財政状況となっております。

これらのことをふまえて、義務的経費を厳しく抑制し、物件費を中心に前年比マイナスといたしました。五十七年度より毎年減額を行ってまいりましたが、累計にして三〇%の節減達成であります。

投資的経費につきましては、町の総合開発基本計画に添い、公共事業及び継続事業を優先的に採り上げるとともに、新規事業については、事業の緊急度を考慮し計上いたしました。

今年度の主な事業としては、二年目の白倉地区家族

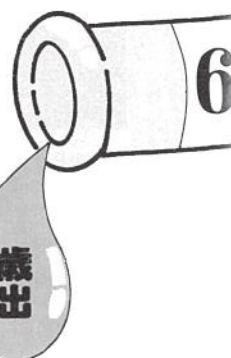


昭和62年度 一般会計予算

31億3,100万円

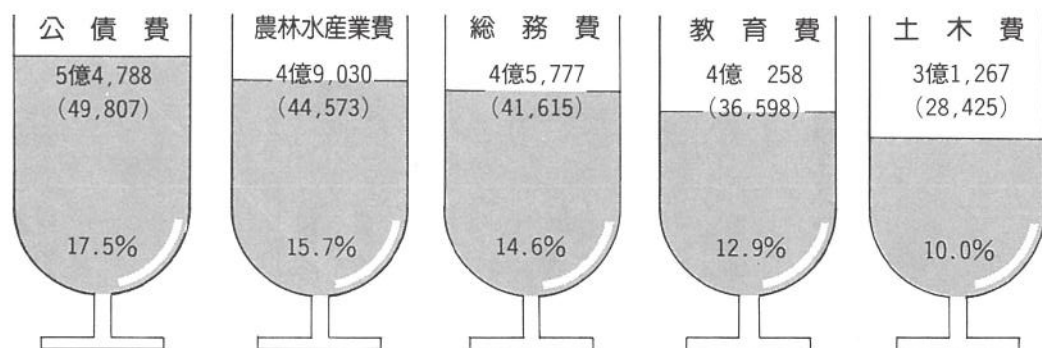
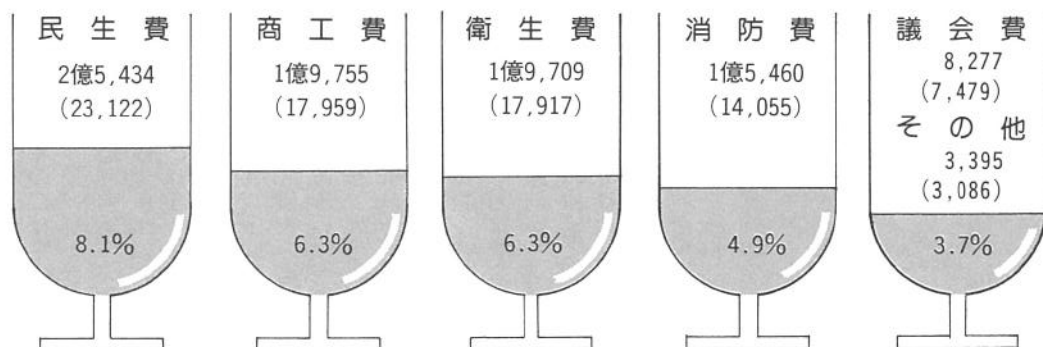
(町民1人当たり 284,636円)

一滴もムダにしないで
そそいであげたい 大切なワイン



性質別内訳	消費的経費		投資的経費	
	16億1,526万円	51.6%	8億2,629万円	26.4%
	うち人件費	9億2,372万円 29.5%	うち普通建設事業費	8億460万円 25.7%
	〃 物件費	3億2,529万円 10.4%	公債費・その他	6億8,945万円 22.0%

○単位：万円
○()は町民一人当たりの数値。単位：円



旅行村整備事業、西五百川小学校グラウンド造成事業、三三分校の増築事業、大滝地区公民館新築事業など、そのほか前年度よりの継続事業である都市計画整備事業、農村総合整備モデル事業、道路整備事業などとなっております。

これらの投資的経費に係る一般財源は、五十九年度来の、一連の国庫補助負担金及び県費等の削減により、厳しい状況が続いておりますが、健全な財政運営の確立に最大の努力を図りながら、財源の効果的な活用に資するとともに、重点事業とするもの、さらには緊急度の高い事業を重点的に採り上げるべく、査定を行ってまいりました。

なお、売上譲与税関連については、全容が明らかとなっていない状況であり名目の計上といたしました。

以上の結果、昭和六十二年一般会計予算の総額を、三十一億三千百万円と定め、前年度当初予算額との比較で、一・七%、五千四百百万円の減額となりました。



「積極的な取りくみを」と、菅井委員長(右)から答申書が町長へ手渡された。

家族旅行村は、公営企業による運営が望ましい

●—検討委員会の最終答申—●

昭和六十四年オープンをめざし、すでに六十一年度から、施設の整備工事が進められている家族旅行村事業(朝日山麓観光レクリエーション地区整備事業)。その管理、運営はどうあるべきか、町長の諮問を受け、六十一年三月に発足以来、いろんな視点から検討してきた家族旅行村管理運営等検討委員会の、菅井敏夫委員長から去る三月十七日、最終答申書が小林町長に手渡されました。

「民営化」「第三セクター」という言葉が新聞紙上などでも多く使われ、専売公社や電信電話公社をはじめ、今月一日から国鉄の分割民営化がスタートしました。公共の福祉を目的とした行政分野の仕事においても、ムダのない企業の経営を望む、あるいはめざしていかなければならない時代となつていきます。

地域の特徴づくりや地場産業の創出・活性化、さらには過疎化への歯止めをねらいとし、滞在型観光施設

を中心としたこの家族旅行村事業についても、役場がやるのでは……」との声もあつて、町としての基本的な経営方針に、多くの関心が寄せられていました。

この答申書では、他県の旅行村施設の視察・研修をふまえ、十回に及ぶ会議と調査・研究の結果、これまで、あるいは今後の施設の整備も、町財政の状況から国や県の公共事業にたよるほかに、第三セクター・民間委託といった経営は法的にも困難であり、公設公営の原則から、公営企業として町直営で運営してゆくことが望ましい、という答申内容となつています。

現在、公営企業として町で行っているものは、水道事業と病院事業がありますが、家族旅行村事業については観光産業としての色彩が強く、その経営内容が異なると考えられ、すでに開村の準備段階に入った今から、企業感覚をもつ組織づくりと専門の人員を配置し、柔軟性をもつて積極的に進めるよう提言しています。

議員の定数削減運動を継続

町区長会の新年度方針

去る三月二十三日、中央公民館において、五十四区の区長から成る朝日町区長会(会長 海野敬次・元町区長)の年度末総会が行なわれました。

地域住民に町行政の正しい理解と協力を図るため、区と町の相互の「パイプ役」として設けられている

区長制度は、昭和三十年に発足。その区長を務めるすべての区長は、自治組織の代表者も兼ね、地域課題のまとめ役として活躍しています。

総会では、町議会議員の

定数削減への取り組みや研修事業などの経過報告、また、火災被災者などへの災害見舞金の支給状況と会計報告など、一年間の事業報告があつた後、新年度への課題や活動について話し合われました。

その中で、整備工事二年目を迎える家族旅行村事業や、主要地方道山形・朝日線の早期完成への協力体制づくり、建設促進運動とともに、六十二年度も引き続き、町の議員定数削減運動を押し進めていく方針を決定し、幕を閉じました。

雨にも負けないグランド

西部地区総合運動場が完成

若者の定住、地域の活性化を図るため、各地域の拠点づくりが年次計画により進められています。

西部地区では、旧西五百

川中学校跡地である、通称「熊の山」をベースとした拠点開発が進められておりますが、昨年九月から整備工事が進められていた、中

家族旅行村対策室を設置

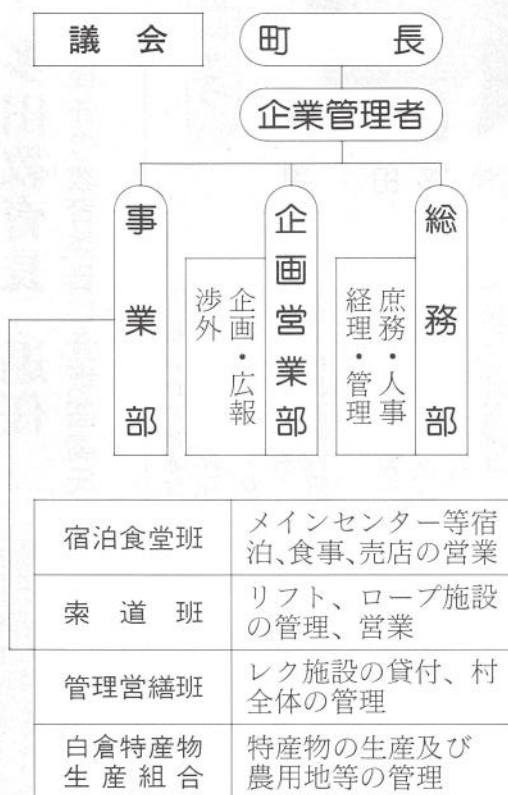
町では、この答申を受け、三月二十五日の町議会臨時会に、家族旅行村対策室の設置を内容とする課設置条例を上程。満場一致で可決され、四月一日の人事異動で、これまで企画課が所管していた家族旅行村に関する事務を独立、同対策室を新たに設置しました。

新設なった対策室の室長には、白井淑浩・前総務課主査（庶務係長兼務）が就任。

兼務職員を含めた九人のスタッフを中心に、先の答申書に基づく家族旅行村の具体的な管理・運営の組織づくりを早急に進めながら、今後町民への理解と協力をさらに求めていくことにしています。

なお、家族旅行村施設の整備状況などについては、来月号で特集を組み、お知らせします。

公営企業による家族旅行村の運営組織図（答申案）



新設された対策室のメンバー（事務室は役場3階です）

心的施設である西部地区総合運動場が、このほど完成しました。

西部地区総合運動場の広さは一万二千四百六十平方メートル。総工費は三千四百三十二万円。クレイ舗装という特殊な工法による排水処理を行い、これまで雨が降れば一週間以上も使えなかった状態が解消されることになりました。

敷地内には球技用バックネットとベンチ、便所を兼ねた用具入れや水飲場も整備され、ソフトボール大会や運動会など地域や企業での総合的なレクリエーション活動が活発化されるものと、関係者は喜んでいます。

工業再配置促進費補助制度を活用

この事業の実施にあたっては、通産省所管の「工業再配置促進費補助制度」を活用し整備されたものです。これは、太平洋ベルト地帯の集積、過密の状況から地



完成した西部地区総合運動場、左上が健康増進センター

方へ労働の場の分散をすすめ、農村地域の過疎対策、活性化を図る目的で昭和四十七年からスタートした、工業再配置促進法に基づく国の制度です。

具体的な補助対象事業は企業の誘致、移転等をねらいとしながら、生活の場、働く場の環境や福祉施設の整備を進めるためのもので、町内では白倉スキー場のリフトや清水工場団地にあるくらしのミニ文化館「六本木」の施設が、この制度により補助を受け整備されています。有名な施設では、宮城県中新田町にある文化会館「パツハホール」も同じ制度によるものです。

投票率 83.28%

なごり雪の舞う 県議会議員選挙の投票日

【投票結果】 (人)

区 分	男	女	計
当日有権者数	4,088	4,235	8,323
投票者数	3,268	3,663	6,931
棄権者数	820	572	1,392
投票率(%)	79.94	86.49	83.28

【開票結果】 (票)

有効投票数	6,818
得票者数	
木村 久助 (自由民主党)	5,550
斎藤たかし (日本共産党)	930
竹谷 義一 (自由民主党)	338
無効投票数	112
投票総数	6,930

* 投票者数と投票総数の差1票は、不在者投票の不受理分です。



前教育長 多田 積

退任あいさつ

朝日町の
活性化を

多田教育長 退任

後任の教育委員に登坂盛高氏

国の臨時教育審議会による第三次答申が、今年四月中に出されようとしており、これらの指摘による教育課題への対応策及び当町における教育向上のための新しい対応が、六十二年度より始まるうとしています。町の教育課題は山積みしていますが、小林前教育長(現町長)からの申し送り事項は、曲がりなりにも実現してまいりました。私は、復員直後の昭和二十一年十月旧宮宿町役場に奉職、以来四十有余年。その間、教育長の職をけがすこと約十八年におよび、新生朝日町の誕生、朝日中学校の発足など、町史に残る感動のドラマとともに、長く町政に携わってまいりました。年齢も六十五歳を過ぎており、任期を一年六か月ほど残しますが「新しい器には新しい酒」、ちょうどよい節目と考え、また教育委員会の活性化を願い、退任を決意しました。今後は「晴耕雨読」の境地の中で、一町民として当町の発展に寄与したいと思ひます。私がこれまで來れたのも、町民各位の御指導、御協力の賜物であると心から感謝申し上げます。

教育長の多田積氏が、任期満了を前に、辞意を表明したことにともない、町議会臨時会において、後任に町立病院事務長・登坂盛高

氏の教育委員就任が、満場一致で決まりました。多田積氏は十七年余の長きにわたり、町の教育振興発展に大きく貢献されまし

4/1町職員の動き

●異動

()は前係名

▽総務課 庶務兼バス係長 鈴木千良(文書係長) 文書係長 柴田 忠(病院庶務係) 庶務係 柴田智子(出納係) 企画課 企画広報係長 岡重利(福祉係)同係 高橋さだ子(国保医療係)▽税務課 地籍係長 渡辺吉助(地籍調査係長)同係 鈴木高敏(衛生係)同係 松田勝美(地籍調査係)*同係は農業委

た。その御尽力と御労苦に、深く感謝申し上げます。後任の登坂盛高氏は、県教育委員会の承認を経た上で教育長に就任されます。

員会から移る▽住民課 福祉係長 豊嶋茂憲(住民係)同係 若月加代子(庶務係)年金係 松田千枝(学校教育係)消防防災係 安藤一夫(地籍調査係)▽保健課 長 鈴木信吉(農業委員会事務局長)国保医療係 長 岡信之(町民税係)▽産業課 事業係 長 岡茂(西部出張所)▽出納室 出納係 長 岡昌子(年金係)▽家族旅行村対策室(新設)室長 白井淑浩 庶務係 長 計画係 長 菅井和広(企画広報係長)同係 川口幸男(農政係) 開発係 長 阿部洋一(観光レク基地整備係長)同係 清野直治(同係)*同対策室 兼 務 荒木信之(林務係長)遠藤憲一「同係」鈴木良浩「工務係」▽西部出張所 長 岡もと子(企画広報係)▽北部出張所 所長 原喜内(福祉係長)▽さゆり保育園 海野優恵子(ふたば)阿部幸子(わかば)▽ふたば保育園 宮本千代子



子どもたちにも明るい選挙の推進に一役を！

4月26日は 朝日町議会議員選挙の投票日

(告示/21日)

選挙は、民主主義の根源をなすものであるとともに、私たちの暮らしの願いを政治に反映させる最大のチャ

ンスであり、私たちの一票は、暮らしをよくするため

の貴重な意志表示でもあります。

四月二十一日に告示される朝日町議会議員選挙は、私たちの代表者を選ぶ最も身近で、たいせつな選挙です。

私たちは、この代表者を選ぶにあたって、義理や人情にまどわされることなく、明るくきれいな選挙を実現し、冷静に判断し、悔いのない一票を投じたいものです。

売上税の、継続的な国会審議の動向を占うかたちとなった、今年の統一地方選挙。山形県では県議会議員選挙が行なわれました。

日中も小雪の舞う中、選挙民の出足がいまひとつという声にもかかわらず、朝日町での投票率は、前回五十八年の選挙を、約一・一%上回る八三・二八%の結果となり、有権者の「選挙」への関心を伺わせました。



雪の中、投票所に向う有権者（大舟木）

投票できるかた

町議会議員の選挙において朝日町の選挙人名簿に登録される方は、昭和四十二年四月二十七日以前に生まれ、今年の一月二十日以前に転入届をし、四月二十日現在も引き続き朝日町に居住している方です。

ただし、投票日前に町外に転出された場合は、町議会議員の選挙権はなくなります。

また、告示日前から旅行などで不在になる方は、所在地の選挙管理委員会に投票ができます。

不在者投票は お早めに

投票日に仕事などのやむを得ない事情で、投票所に出向いて投票できない方の

ために、不在者投票の制度があります。棄権することなく、早めに不在者投票をいたしましょう。

不在者投票は、四月二十日から四月二十五日まで、時間は午前八時三十分から午後五時まで、朝日町選挙管理委員会事務局、西・北部出張所でできます。その場合は、かならず印鑑を持参ください。

【この4年間の公職選挙の投票率】

投票日	選挙の名称	投票率	有権者数
昭和61・7・8	衆議院議員選挙 参議院議員選挙	91.40%	8,421人
60・9・16	山形県知事選挙	83.87	8,479
59・11・25	朝日町長選挙 町議会議員補欠選挙	いずれも無投票	
58・12・18	衆議院議員選挙	87.64	8,493
58・6・26	参議院議員選挙	83.05	8,514
58・4・24	朝日町議会議員選挙	96.48	8,467
58・4・10	山形県議会議員選挙	82.20	8,473

(さゆり)高沢きく子(わかば)▽わかば保育園 安藤照代(さゆり)白田清子(ふたば)▽町立病院 事務長 阿部勉(保健課長) 婦長 粕谷純子 副婦長 佐藤久美子 看護婦 佐藤みどり(新採・大谷二)白川由美香(新採・松程)薬局長 小国久男(新採・大町)▽教育委員会 教育次長 登坂盛高(病院事務

務長)用務員 朝日中 鈴木敏一(西五百川小)西五百川小 近衛美智永(朝日中)▽農業委員会 事務局長 長岡寛治(北部出張所長)
※主査等昇格は省きます。

●退職

▽伊藤とし(町立病院婦長) 長岡寛治(北部出張所長) 長岡寛治(北部出張所長) 長岡寛治(北部出張所長)

対し、郵便等で請求してください。

くわしくは朝日町選挙管理委員会 ☎ 六七一二二一へお問い合わせください。

カメラあんくる



先生に手を引かれてさっそうと入場 (大沼)



あれ、ボクだけ名まえを忘れてきたのかなー (大暮山)

おねえさんたち これるかな? 「ハイ!」

3つの幼児学級で18人の入級式



やさしいおねえさんに
ネームプレートをつけて
もらいました (大沼)

まちにまった入級の日、手にもつカバンも軽そうです (大暮山)



はい、これが新しいノートよ!! (大沼)



「しっかりやってるかな」せんばいたちも
気になります (大沼)



あいさつもりっぱにできました
(水本)



学校のおにいさんやおねえさんたちは歌と演奏で歓迎してくれました（大沼）

あしたから いっしょに



先生のプレゼントをほしいひとは、みんなと仲良くなっちゃだめだぞ「はい／」（水本）

保育園へ通わせるには遠くて……など、山間地区の交通の事情などを考え、町では、昭和四十九年から小学校や分校の校舎の一部を開放し、保育園に準じた施設として「幼児学級」を開設しています。

水本（五人うち初年一人、大暮山七人うち二人）、大沼（六人うち一人）の、それぞれの幼児学級では、四月七日、学校の体育館で入級式が行なわれ、小学校のおねえさんたちから、暖かい拍手で迎えられた幼児学級の一年生は、ちよつときんちよつの中、一緒に仲間入りをしました。



ハロー! 図書館

新刊書のごあんない

毎年、町立図書館では新刊図書として、子どもの本を含めて約一、〇〇〇冊の本を購入したり、寄贈を受けたりしています。

その中から、私たちの身近なことや、最近、社会問題となつてゐることをテーマとした八冊の本を選んで紹介してみたいと思います。

このほか、図書館には、いろいろな良い本がたくさんあります。ぜひ図書館に足をのばして、ご利用ください。(町立図書館 司書 小関典子)



愉しく老いる女の心支度

吉沢 久子 著

朝日町は高齢者比率一八・四％と、県内一位です。全国的に高齢化は加速度的に進み、二十一世紀には三〇％を越すだろうといわれています。

「若い」はどんな人であろうと、自分の意志に関わりなくやってきます。老人問題は家族の問題でもあります。結核、老いをみとめるのは、妻、娘、嫁という立場の女性が多く、女性の問題とも言えるようです。特に「ぼけ老人」は目を離せない危険を多くはらんで

おり、介護者の心身を悩ませてゐるのが実態です。

また、高齢化問題は、現在の高齢者だけの問題ではなく、今の若い世代が高齢者になったときの問題なのです。「人生八十年の時代、子育ても終わり、仕事から離れた老後に、自分ひとりの時間をいかに楽しく、有意義に過ごすことができるかが課題だ」と作者は語っています。

豊かな老いを迎えるために、若い人にぜひ読んでいただきたい一冊です。



新しい難病エイズ

青木 雅純 著

今世紀最大の医学のなぞと言われるエイズ。今年一月末に、神戸の女性患者の死が日本全国の人々を震撼させたことは、皆さんの記憶に新しいことと思います。「エイズ」と呼ばれる後天性免疫不全症候群は一九八〇年頃、突然出現し、まずアメリカで猛威をふるい今

や世界各地で多発しています。日本での実情はどうなのか。きわめて高い致死率や患者の特異な生活習慣などから、社会的関心を呼んでいるこの病気の正体は何か。この難病の実態を週刊誌的な興味本位のとらえ方でなく、科学的分野からわかりやすく解説しています。



土と日本人

山下 惣一 著

「今、土が病んでいる」と言われています。「農業づけ農業の中では、土の中に

住む微生物が生存できなくなる。さらに、その微生物やカビの菌を食べてきた生物が生存できなくなり、次々と棲息できない連鎖が広がって、死の土となつてゐる。死の土に植物は育たず、それを食する人間も動物も生存できなくなる」と作者は

語っています。土が育てた植物を口にし、排泄し、土に還す。この自然のサイクルを大切にしながら、日本人は土を作ってきたのです。経済優先の社会が農業の機械化を促進し、機械化が兼業化を促進してきた。その結果、土づくりが忘れられてきたのです。「永遠に続く農業は、生きている土を作っていくことから始まる」と作者は訴えています。



「グリムおばさん」とよばれて

シャルロット・ルジユモン 著

「むかしむかしあったけど。じいちゃんとはあちゃんとあつたけど」ではじまる昔話を聞いて、大きくなった人は多いと思います。しかし今の子どもたちは、その昔話にふれる機会があまりにも少なすぎるようです。現在の子どもたちは、テレビや本、人形劇などにすりかえられた形で、物語に

接する機会が多くなっている、物語や空想の世界を楽しむことから遠ざけられていくような気がします。語りをきくということは、一人ひとりが自分なりのイメージをふくらませて、空想の世界を広げていくという事です。この本は、生涯にわたりメルヘンを語りつづけてきた記録です。



普段着の「生きて行く私」

宇野 千代 著

自伝「生きて行く私」から始まって、第三作目。現在八九歳。この人生の達人は「理解するとは何か。ただ、ただ、そのものの自身を尊敬することである。人々よ、あなたが何事でも、理解することを望むのであったら、ただ、ただ、そのものの自身のことを、とことんまで尊敬することである。目的はすなわち達せられる

であろう」。また「私たちはただ素直に自分の希望に従えばよいとは、何と有難いことであろうか。生活していて希望を発見するくらい、嬉しいことはないからである」とも書いています。日常の暮らしぶりや、さりげない出来事の中に、深い洞察と示唆を潜ませたエッセー集。とにかく精神衛生にいい本です。



田舎ぐらしの幸福

高橋 義夫 著

作者は全国各地の山村をまわり、都市と田舎をいつたりきたりの生活をしていきます。西川町の民家を仮住居として持っています。この本は、七人の村長さんの取材をもとにして、村

で生きる幸福や村の未来を探索するというものです。二百七人しかいない日本一のミニ村、日航ジャンボ機が墜落した村、県内ではタキタロウの棲む朝日村など、バラエティな「村の生き方」



かみなり雲がでたぞ

最上 一平 著

町内、上郷出身のまだ若い作家です。「銀のうさぎ」で日本児童文学者協会新人賞を受賞し、この本は第二

作目です。養蚕農家にとって、かい

著者は、宮宿の禪寺・福昌寺の住職で、「秀芳先生」の名で町民に親しまれています。幼児教育にも造詣が

深く、境内に保育所を設け、それが町の保育園の基に

ふるさとの本

石の玉 第七集

鈴木 秀芳 著

なっていました。福昌寺の門前の「伝道板」をご存知の方も多いだろうと思います。日曜日ごとに開かれる日曜座禅会での、説話をまとめたのがこの本です。仏教を基点にした、人生の過ごし方について、わかりやすく説いています。

を興味深く紹介しています。「過疎」「村おこし」などの言葉が、盛んに使われるようになってから久しくなります。村の生活の何が不幸なのかよりも、何が幸福か、何が楽しいのかを問ひかけ、現在あるものを生かすという発想を、住民に訴えます。町政にたずさわる人はもちろん、町民みんなに読んでほしい本です。

「それいけー」
「あつたね」
「御礼だね」



もちつき大会や ソリ競争で 楽しい一日

白倉スキー場の感謝デー



晴天に恵まれた三月二十二日(日)、町営白倉スキー場では、今年もシーズン中の利用を感謝して、もちつき大会など多彩な催しが行なわれました。

そろそろシーズンも終わりとおって、当日、スキーを楽しんでいた三百人ほどの親子づれのスキー客らは、正午前から行なわれたもちつき大会に挑戦した後、スキー場管理組合の人たちから盛り渡された、つきたてのもちとウサギ汁のごちそうに、舌つづみをうっていました。

「初めてですが、いい日に来ました。グレンデも家族で楽しむにはもってこいのスキー場ですね。来年は家族でぜひ来たいと思います」と、白鷹町から来られたというスキー客の一人が語



雪もふりーなふー！(ソリ競争)

1万九千人の御利用 に感謝します —スキー場管理者から—

つてくれました。かたわらの広場では、雪の中にかくされたチョコレートやキャンデーなどを探す、幼児を対象とした雪上宝探しも行なわれ、たくさんのお菓子を見つけ、腕に抱えながらおかあさんのところへ帰ってくる、元気な子供たちの歓声でいっぱいでした。

午後からは、ロッジ「しらくら」前をスタートとして、八百メートルのグレンデを一気にすべり降りる、小学生から大人までを対象としたソリ競争が行なわれ、雪のギャップ(こぶ)にはね上がりながら、懸命にソリを操作する参加者に、家族らの声援と拍手が送られていました。

今シーズンは暖冬の影響で、スキー場オープン時期は、積雪の少ない状態が続き、利用者やスキー場関係者をやきもきさせましたが、一月に入って降り続いた雪で、グレンデコンデションも良好となり、町内外、合わせて、延べ一万九千人の利用者数となりました。

多くの皆さんの御利用と御愛顧に感謝しますとともに、一層、施設・サービスの充実に努めていきますので、来シーズンもぜひ多くのかたの御利用を、よろしくお願いいたします。なお、今シーズンのリフトの運行は、大きな事故もなく、四月五日(日)で終了しました。

【白倉スキー場の推定利用者数と積雪の状況】

年/月	前年12	1	2	3	4	計	
利用者数 (人)	62	0	7,941	8,542	2,826	88	19,397
	61	1,649	8,613	7,261	2,846	166	20,535
積雪量 (cm)	62	0	75	165	95	60年	19,264
		0	50	115	40	59年	18,334
	61	50	210	245	165	58年	17,012
		25	160	185	100	57年	12,266

* 積雪量は月末日の観測数値で、上段はリフト降り場付近
下段はリフト乗り場付近



いきを合わせてヨイシヨイ(もちつき大会)

今日の顔

朝日町連合若妻会の
新会長に決まった



西町海野光子さん

「実はまだ、主人に話して
いないんです。仕事（建築
業）が忙しい時期だし、プ
ライベートル的な活動のこ
は、あまりお互いの話題に
しません。お義父さんたち
に相談したところ『いい勉
強になるから』と、むし

ろ勧められました。
会長を引き受ける決心を
させたのは「いちばん小さ
い子が、小学校に入ったこ
と」。中一を頭に、全員男の
子五人の母親でもある。「会
の活動をするにも、まず家
庭と子供のことが一番大

事」と強調する。

昨年度は中部地区の副会
長を務め、お年寄りと子供
たちとの三世代交流事業で
は、若妻会が担当した昼の
お弁当がたいへん喜ばれ
「女性の得意な分野を活動
に結びつけたい」と語る。
趣味は、映画鑑賞とそうじ。
連合若妻会として主催した
「名画の夕べ」を今年もゼ
ひやりたいと意欲を燃やす。
「会議に出る場も多くなり
ますね」という問いに「委
員のかたのご意見も大事で
すが、百人討論会などでの
参加者の声も、もっと大切
にしてほしいですね」。

春を告げる

宮宿のひな市

恒例になった宮宿のひな市が3月
23日、今年も本町・福昌寺わきの街
道で開かれました。

この市は宮宿商店街の活性化を図
るため、20年ほど前から町内の卒業
式の時期に合わせ開かれているもの
で、始まったころはおひなさまも飾
られていましたが、最近ではその姿
も見られなくなり、代わってきれい
な鉢植え花のおひなさまが路上に並
び、おおぜいのお客さんの目を引い
ていました。



春を告げる花ものに人気が集中



白い羽根を追う

町民バドミントン大会

バドミントンの愛好者を
広げようと、恒例の町民バ
ドミントン大会が三月二十
二日（日）、健康増進セン
ターで開かれました。
八チーム約五十人が参加
した会場では、二つのブ
ロックに分かれたリーグ戦
に、必死に白い羽根を追う
熱戦がくり広げられました。
各ブロックの優勝チーム
は、次のとおりです。
▽Aブロック 上郷チーム
（監督 村山 幹男）
▽Bブロック 消防署チーム
（監督 五十嵐澄雄）

中部 水本 常盤Aが優勝

地区子ども会卓球大会

▼西部大会 ①常盤A ②大
舟木今平 ③西船渡高田

春休みの中、スポーツを
通して子ども会のまとまり
と健全育成をめざそうと三
月二十二日、中部、西部各
地区の子ども会卓球大会が
開かれました。

中部地区十八チーム、西
部地区十二チームが参加し
た町民体育館と健康増進セ
ンターの各会場では、白球
を追う子どもたちの元気な
声がひびきわたっていました。
試合結果は次のとおり。
▼中部大会 ①水本 ②助ノ
巻雪谷 ③和合 ③本町A



中部地区大会の試合風景

五十三歳の郷愁

鈴木良助さん

《寒河江市元町3丁目13の1》



プロフィール

- 昭和8年、栄町生まれ
- 山形東高校(夜間部)、中央大学法学部(夜間部)を卒業し、山形県をこま業務庁環境保健課課長、4月立総合療育センターに就任(山形市自由立の施設です)
- 趣味 ゴルフ(2年生)「愚口していましたが、ミイラになりました」

中学を巣立って故郷を離れてから、ほぼ四十年が過ぎようとしておりますが、年ごとに、ふるさとへの愛着が深まってまいります。お祭りの神楽、つぶ拾い、かじか突き、手作りの筏下り、なんごせめ、よその家の池からこっそりコイを釣り上げた時のスリル、落穂拾いに行つてトツ柿を盗つて追いかけられた恐怖。戦中、戦後の暗い世相の中にあつても、夕やみが濃くなるまで遊び回つた童話のような時代でした。

私たち一家は、妻の両親の家に同居していましたが、父は本町、母は送橋の生まれなので、みんな一杯やるときまって郷里の想い出に花が咲きます。楽しかったこと、うれしかったことはもちろん、苦しかったことやつらかったことさえも懐かしく回想され、時のたつのも忘れるほどです。

寒河江市では、朝日町の出身者が集まつて「大朝日会」なるものをつくり、懇親会や小旅行をして楽しんでおります。先年、ふるさと旅行を計画し、大谷のワイン工場や和合のリング園、大沼の湖畔の家などを回り、ふるさとの今昔を語り合い、歌い、笑いながら、楽しい一日を過ごしました。

町の情報紙「広報あさひ」は、毎月、職場に回覧されてきますので、時々自宅に持ち帰り、家族で読んでいます。二月号での、小林広報委員の提言「育てよう思いやりの心」に大変感銘しました。冷たい打算と露骨な自己中心主義が横行する時代であれば、なおさらのこと、人の心のふれあいと暖かさを大切にしたいと思

議員定数削減はプラスの選択

戦後、日本も議会制民主主義導入から四十余年。理想に近いとされる、かの英国でさえ百年の歳月を要したと言う。我が国も、いろんな意味で試行錯誤を繰り返して、真のあり方を求めて模索している中途なのである。振り返って、当町でも先の議員定数削減の問題は、様々な物議をかもしだしている。私なりの考えを述べてみたい。

定数削減には大賛成である。定数削減について、ある反対意見は「議員定数削減は、町民にとってマイナスの選択」と断じた。(町報六十一一年八月号)その内容を分析させていただくと、①行革の一環として削減するのなら、議員より役場職員をせよ。②削減の議論以前のアンケートは、意味がない。③地域の利益誘導型エゴの保持。以上である。

個々に反論する。①今や「国会を行革せよ」との指摘すらある。行革には聖域

はあり得ない。②民主主義の根幹にかかる暴論である。少なくとも有権者は、常日頃の町政を肌で感じていた結論が、アンケート結果である。子供ではない。③何をか言わんやである。先の国政選挙では、有権者たちがこぞって非難していたのが、この地域の利益誘導型選挙の弊害ではなかったのか。以上である。

では、百歩譲って氏の言う通り再度のアンケートをとつてみたらどうか。(区長さんたちには再度難儀をおかけしますが、決して徒労に終わらせないために)

ちまたでは、町議選の立候補予定者は、十九名から二十一名とささやかれている。正に削減への必然性を何よりも雄弁に物語っているのではないだろうか。

「議員の定数削減は、町民にとってプラスの選択」と思うのだが、皆さんはいかにお考えだろうか。

一町民(39歳)

くれぐれも 火の元にご用心



お年寄り家庭への 火災予防のポイント

●火気使用器具の周囲から燃えやすいものを遠ざける。洗濯物を、火で乾かすようなことは止めさせる。

●タバコを吸うお年寄りに、大きくて深い灰皿に、いつも水をはったものを用意させる。また、マッチよりもライターを使わせる。

●寝タバコはやめさせる。

●なるべく、ひとりで留守番をさせない。

●自分で炊事をするお年寄りに、かっぱう着をつけるよう注意する。

●一人暮らしのお年寄り世帯には、自動火災報知器を設置するように勧める。

本年三月十八日現在、広域管内で、すでに八件の火災が発生し、死者三名、負傷者一名、焼損棟数十一棟となっています。そして八件のすべてが住宅火災で、特に、死者三名（うち六十五歳以上の老人二名）の記録

は、広域消防発足以来十六年間で最悪の状況です。高齢者になると体力も衰え、判断力が弱くなり、火事の発見が遅くなるなど、高齢者特有の条件が災いしているようです。悲惨な事故を防ぐには、お年寄りの

自覚を促すことも大切ですが、もっと大切なことは、回りの人が十分に注意を払い、適切な火災予防の手を打つことです。

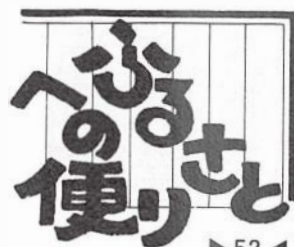
特に、家族と同居しているお年寄りよりも、お年寄りだけの世帯の火災事故が多く、一人暮らしのお年寄りなどには、近所の暖かいお世話が必要です。

（西村山広域消防本部より）

火災が多発

死者は広域消防始つて以来

最悪！



52

います。相手の立場を思いやる気持ち、充実している町。「おはようっす」「ごくろうさんっす」のあいさつが、にぎやかに交わされる町。間違ったことをしようとしている、よその子供を「だ

めだよっ」と、みんながしかれる町。ちよつと考えると簡単そうで、良く考えたと夢のように難しい理想郷のようですが、私のふるさと朝日町は、このような町であつて欲しいと、いつも念願しております。

禁煙して健康を守ろう

●日の読売新聞に、次のような記事が掲載されていきました。

「二〇〇〇年（十三年後）には、肺ガンがガンのトップになると予想されている。

特に、婦人の喫煙者の増加と比例して、肺ガンの発生は二十年前の二倍に増加している。喫煙者の夫を持つた妻は、タバコを吸わない夫を持った妻の、二倍に当たる肺ガン患者が発生している。

タバコは肺ガンだけでなく、胃ガンや肝臓ガンなどを誘発する恐れもある」とのことである。

他人事とは思えず胸が傷みます。亡くなられたかたの死因は、タバコとは直接関係がないかも知れませんが、ガンの恐ろしさには無関心でいられないと思います。

今、アメリカではガンを撲滅し健康を守ろうと、一大禁煙運動を展開していると、テレビで放送されていました。

「百害あつて一利なし」といわれるタバコを、せめて我が町からだけでも追放し、健康で明るい家庭と社会を建設されるよう、私たちも一大禁煙運動を起こそうではありませんか。

R 生



かばかりか。残された家族の御苦労を思う時、



特別寄稿

リンゴ園を経営する沼向の菅井功さんが、J S Vという活動を通して、中国での約一カ月間にわたる、リンゴの木の剪定指導などを終え帰りましたので、その話題を二回に分けて紹介します。

J S Vとは

私がJ S Vの活動に入ってから二年になる。J S Vとは「日本シルバードボランティア」の略語で、発展途上国に対し技術協力などを行い、国際的に活動している財団法人組織の団体である。私の派遣先・中国では、

J S Vを以前「白髪勤強隊」と言っていたが、今は「日本花甲志願者協会」と呼んでいる。「花甲」とは還暦を言い、「志願者」とは志願者の意味で、中国全土に百名近い人が活動している。

中国での

受け入れ、活動については、中国

国家科学技術委員会と

J S Vとの間で、科学技術交流を中心とした合意書が取り交され、派遣者の活動がスムーズに行えるよう図られている。

現在の登録者は約三百名で、中国以外の発展途上国にも、農業、土木、建設、機械、化学、経営管理、語学、教育、その他医療関係の部門に分かれ、八十二名が派遣されている。

実年に達し、それぞれの立場で腕に覚えのあるかた

は、ぜひ人材登録して、余生を外国の地に挑戦してみませんか。

● 初の中国訪問

私がこの活動に参加しようと思いついたのは、今から五年前であった。学生時代に、中国語を二年程習ったことがあったので、中国ならやってゆけると秘かに考えていたが、しかし、実

として待ち受けていてくれたので、予定どおりの技術交流ができ、意外に楽しい毎日であった。

今年二月十五日、第二回目の訪中となった。今回の派遣目的は、リンゴの整枝剪定の実技指導と技術交流である。三月十五日帰国するまで、山東省、煙台市、棲霞県、招遠県、福山区と巡回し、一回目の訪中でお

私が見た中国の素顔

沼向 菅井 功 (59歳)

行に踏み切るとなると不安がつきまとうものである。

一九八六年、第一回目の

訪中の許可があり、七月二十八日から八月十二日まで

山東省、遼寧省、山西省の果樹事情調査に、初仕事の

緊張感を隠しながら、単身で成田を出発した。テキスト

トやセミナーでの中国語がどこまで通じるか興味深い。

中国は、思っていた以上に

に治安が良く、各市の科学技術委員会では、私を国賓

世話になった人たちの再会や現地の中堅技術者、研究機関の先生たちとの新たな交流をもち、健康にも恵まれ、無事にその目的を終えることができた。

その間、背筋が寒くなるようなことがしばしばあったし、日本人と中国人の大きな違いも見えてきた。

毎日の日記から拾い上げた、断片的な私の感じたままを、限られた紙面の上で紹介したい。

● 中国のリンゴ

まず、朝日町はリンゴの

産地だけに、私が中国に行って技術指導をやることについて、何等かの反発もあると思うが、特に今、果物についてはアメリカからのサクラソボ輸入問題もあるのだ、となりの国・中国でのリンゴ生産の実態を知っていただき、日本のリンゴ生産者同志が、どう生きていけば良いのかを考えてもらえればと思う。

日本でのリンゴの流通事情は、規格のうるさい形の中で動いている。味が良く、大玉のものをたくさん採らないと金にならない。

中国では、どうだろうか。味がほとんどで、リンゴの形であれば何でも売れるし、大玉はいらない。重さでは二百グラム程度のものをたくさん採るために、技術開発を急いでいる。着色の点では、ふじ品種で言えば、

ベタ赤のものは日本では市場価値は低いが、中国では好まれる。消費嗜好は全く反対で、日本人には好まれないリンゴが多い。

ただ、現在日本で作られたふじ品種が、一つの村、



福山区の指導者らと菅井さん(中央)
左のかたは昨年、東根市に研修に来た王さん。

古道を たずねて ③⑤

戸数が三百戸程度の生産大隊で、毎年、平均五十ヘクタールくらい新植され、それが今後十年くらい続く計画である。日本のリングゴが

大玉から小玉への生産体形に変わった時、外国との競争がくるものと思う。
中国の全国生産量は、推定で現在五百万トンくらい

朝日川、前田沢川、送橋川、大谷川、川通川などの小川がそれである。五百川とは、数多くの小川が流れる所、の意味である。

しかし一説には、その昔五百川氏が居城し、この付近一帯を治めたとの説もあるが、これは伝説と考える。さて、本論に入るが、最

卯月の空は花ぐもり
若草燃ゆる最上川
黒滝越えて天神淵
三崖滝にお八天
男度胸でどんと行け
基点・隼・三ヶの瀬越えて
清川東風に帆をあがりや
舟は帆まかせ帆は風まかせ
今夜はおばこの腕まかせ
どんと漕ぎだせ度根性

五百川峡谷三〇キロの流
れは、最上川の長流の中
でも難所であった。

まず、この「五百川」の地名の由来を考えてみよう。兩岸から迫る断崖絶壁の谷間に、数多くの小川が流れこむ。上流から実淵川、大舟木川をはじめ、皆朱沢、

水の古道 母なる川 最上川 ② 五百川峡谷の掘削

上川の舟運が盛んになったのは、江戸時代の中期、元禄時代以後である。それ以前は、上杉、最上、酒井の各藩では、それぞれ小規模の舟運をやっていたが、なにせ、いたる所の岩盤、激流には手を焼いていた。その上、毎年繰り返す洪水である。

とみている。山東省だけでも百二十万トンである。中国の人口は約十億以上らしいが、国民に供給するため量生産に力を入れているの



八天稲荷大明神の石神と最上川

この時「それでは私共、この川の改修工事をおまかせ下さい」と願った者があった。それは上杉藩の御用商人、大阪の西村久左門と同成政の兄弟であった。これは、今から約三百年前の元禄五年六月十日のことである。西村兄弟は当時、京都を拠点として、全国に舟運業を持つ大商人であった。兄弟はボンと一万七千両の大金を投じて、突貫工事を進めた。さしもの最上川一帯の大掘削工事も、元禄七年九月、見事に完成し

が現状である。
しかし、リングゴ以外の、果汁酒を作るための資源が豊富にとれるので、それらの圧力が恐ろしいと思う。

だから我々としては、遠い将来への展望に立つて、新たな技術開発を模索しながら進まなければならない。
(次号へつづく)

た。この金は今の金に換算すると、約二億五千万円くらいだという。
白鷹町史「松川御普請伝」の中に「菖蒲に黒滝と申して、数丈の滝にて、時として鳴音雷の如し」とある。
お八天もまた、激流中の激流であった。前朝日町助役・故鈴木茂雄さんは生前、次のように語ってくれた。
「今から三百年程の昔、米沢藩の藩米を満載した下り舟が、お八天の渦に巻きこまれた。舟方衆は青くなつて、なす術も知らない。こ

の時一人の舟方が『これ水神の祟りならん。われ川底にもぐり、水神の霊を慰めんと』と、ザボンと水にもぐつて、水神を拾い上げた」と。この神は今、お八天の川辺に、石神として建っている。
また、和合住在の木村定雄さん(八〇歳)は語る。「明鏡橋の下、数百メートルにわたって岩を切り開いたが、ねの跡がある。あの付近は昔、浅瀬のため舟運に不便、故に西村久左門が切り開いたのですよ」と。
(広報委員 長岡幸助)



五百川峡谷の難所
(これは昔の大難所)



62年3月1日～3月31日届出
*おしあわせに
(婚姻届)

太郎二 福島県
長岡 正博 鈴木かつ子
中沢 前田沢
堀 和彦 熊谷 弘美



大谷二 佐藤 博司さん
みどりさん



大谷二 上山市
佐藤 博司 志田みどり
本町 栗木沢
鈴木 正明 遠藤 明美
西川町 送橋
佐藤 春樹 渡邊まき子
松程 天童市
阿部 秀之 垂石 京子
太郎一 白鷹町
小川 典之 安達喜志子
下芦沢 中山町
渡邊 正文 鈴木 幸美
沼向 本町
菅井 誠吾 樋口 浩子

*すこやかに

五年前、友人の紹介で運命的な出会いをしたお二人。お互い長男と長女の「跡継ぎ」という障害をのりこえ、万物が祝福するかの様に晴れわたった三月吉日、草木の春の息吹とともに第二の人生へとスタート。

「ふれあう時間を大事にして、隠し事がなく何でも話し、協力しあえる夫婦になりたい」と語る博司さんは、朝日相扶製作所に勤務。一方、みどりさんはこの春から朝日病院に勤め、心や体の病を優しく看護してくれる「白衣の天使」さん。

二人三脚のリズムを大切に、永遠の幸せをお祈りします。

(広報委員 白田妙子)

*やすらかに
(死亡届)

区名 出生者氏名 父名
太郎三 長岡 真美 正秀
八ッ沼 阿部 亮 壽雄
四ノ沢 清野 拓 則昭
大谷二 白田 直樹 勝敏
大谷七 村山 聡 順一
新宿 今井 智悠 規人
杉山 鈴木 一勲 壽巳

*人口と世帯数
(3月31日現在)

▽人口 一〇、九九七人
男 五、四八〇人
女 五、五一七人
▽世帯数 二、六二一世帯



社会福祉協議会へ善意

●大町の多田横さんから、現金二十万円。
●西町の若月清蔵さんから、現金二万円。

教育施設へ善意

●朝日中学校の父母と教師の会から同校へ、九万九千円相当のラングラウフスキー靴十八足。
●朝日中学校の六十一年度卒業生から同校へ、十八万円相当のカラビデオカメラ一台。
●大谷小学校大暮山分校の六十一年度卒業生から同校へ、一万五百円相当の洋傘十五本。
●北部婦人会から北部公民館へ、一万五千円相当の湯のみ茶わんとお盆それにきゅうす。

農作業事故に御注意

農繁期の時期を迎え、トラクターなど農業機械の使用が多くなるとともに、事故も多発しています。最近、町内でも作業中のトラクターによる、いたましい幼児の犠牲者が出ています。操作する側の未熟な技術や、忙しさに追われてのちよつとした油断が原因で、大きな事故につながっています。

作業前は始業点検を行い、一人作業時の危除防止、子供の事故防止など一人一人が声をかけあい事故を未然に防ぎましょう。また、農作物の病害虫防除のため、農薬を使用する時は、農薬の性質をよく理解し、安全に行うようにしましょう。



▼「一步会」発行の行事カレンダーが、我が家にも届いた。今年度は趣向をこらしたカラフルな写真入り、町内の年間行事が目で見える。毎年愛用しているが、とくに四月・五月の欄には各地区の祭りが集中している。

▼同じ職業、同じような生活の基盤の上に成り立っていた地域社会が、今、大きく変容している。どここの地区でも職業の多様化により、住むところは同じでも働く場が異なる「混住社会」が進行し、「村落共同体」としての基盤が崩れかけている現象を、残念ながら認めざるを得ない。

▼こうした中で、そこに生きる住民が年齢や職業を越えて「心の交流」を図ることが必要だ。交流によつて話し合いが生まれ、点から線、線から面へと輪が広がる。祭りへの参画は、一つの話題を共有し、心の交流を図るには極めて大事なことです。